

栗原市地震防災マップ

地域の危険度マップ 一迫地区

想定する4つの地震のうち最大の震度の場合

○この地域の危険度マップは、地域が揺れやすさマップ(想定する4つの地震のうち最大の震度)において示された強さ(震度)の揺れとなった場合に、地盤の液化化の影響を含めてどの程度の建物被害(全壊及び半壊相当)が生じるかを100メートルメッシュ毎に評価し、相対的に表示したものです。
○防災上の可能性として、地域で発生する可能性のある最大の被害状況の目安を示したものであり、住民の皆様方の防災活動に役立てていただくためのものです。全域が同時にこのような被害となることを表現しているものではありません。

地域の危険度マップとは

■地域の危険度マップ
地域の危険度マップは、地震による被害(人的被害)の被害の被害の被害に応じてランク分けし、上で、地図に示したものです。具体的には「揺れやすさマップ」で示した震度の揺れを、この場合、地震の液状化の影響を含めて、全壊(人的被害)の被害率を、全壊(人的被害)の被害率を「危険度」で表しています。

○地震による死亡・ケガの原因は何？
液状化による被害の主な原因は液状化による被害、建物による被害が示されています。
○皆さんの生命・財産を守るためには、住む建築物の耐震化が最も重要です。

建物の耐震化が重要です。

■木造住宅の耐震診断
木造住宅の耐震性は、主に3つのチェックポイントがあると言われています。
○建てられてから、かなりの年月が経っているか(特に昭和56年以前に建てられたものか)。
○住宅が過去に大きな災害(地震や水害など)を経験したことがあるか。
○住宅の構造、形、偏って大きな窓があるなど、耐震に関わる基本的な住宅の性質に問題がないか。

耐震性の判断には建築の専門知識が要求されます。目立った症状が無くても、耐震診断を受けることが重要です。次のような項目に心当たりがある住宅は、特に要注意です。

ドアあるいは窓を開けたとき、枠と建具との間に著しい縦長の三角形の隙間があいている。
ドアあるいは窓の建付けが悪く、建具の開閉が変形に思うようにいかない。
窓の隙間が著しく水平を欠いている。
建物の壁面が傾斜しているのが、肉眼でもわかる。
床面の傾斜が著しく感じる。
シロアリや成虫(4枚羽根のついたしろあり)が浴室から飛び出す。
屋根の棟あるいは軒先が歪んでいる。
モルタル塗壁に長い斜めのひび割れが入っている。
洗面や浴室の土台の一部が老朽化している(腐っているなど)。

家具の地震対策も重要です。

■家具の対策
住宅の全壊を免れても、ガラスの飛散やタンス等の大型家具の転倒、テレビや電子レンジ等の家電製品が飛んでくるといった、日常生活からは想像できない事態によって、思わぬケガをしたり、建物が揺れて火災に巻き込まれたりすることがあります。新烈震中核地域においても負傷者の約割はガラスの飛散や家具類の転倒・落下によるケガによるものとされています。
家具や家電製品の地震対策としては、次のようなものが考えられます。

- 固定器具を用いて家具や家電製品を固定する。
- 食器等の収納物が取散ることを防ぐように、扉の閉閉を防ぐ器具を取り付ける。
- 棚板や食卓を取る場合は、家具や家電製品をなるべく重くする。
- いすや椅子の脚の間に、家具や家電製品をなるべく重くする。
- 家具や家電製品をなるべく重くする。
- 家具の足元を、下に重いもの、上に軽いものを置く。
- 窓枠の固定やワイヤリングロープ等の固定器具の取り付けを行う。
- ガラス面には飛散防止フィルムを貼る。

ブロック塀や石塀の地震対策をしましょう

1978年に発生した宮城県沖地震ではブロック塀の倒壊により11名が犠牲になりました。ブロック塀や石塀の構造は、高さ、鉄筋の配置、必要な厚み、必要な土留、基礎の深さなどによって、建築基準法で定められていますが、この基準が守られていないものもあります。また、設置後の年月の経過により雨水がしみこんで鉄筋が錆びるなど劣化が進行しているものもあります。(※ ブロック塀のみは適用される基準)
道路(特に通学路)に面しているブロック塀が倒壊した場合、学童をはじめとする通行人に大きな被害を与える恐れがあります。塀等の工作物の管理責任は所有者にあります。所有するブロック塀・石塀の安全性の点検を行い、必要に応じて撤去や転倒防止対策を行ってください。

凡例 木造建築物の全半壊率

0~3%
3~5%
5~7%
7~10%
10~20%
20%~30%
30%以上

※このマップにおいて、市の境界部等で、計算上、色の変わっていない箇所があります。

＜問い合わせ先＞
栗原市 建設部 建築住宅課
TEL 0228-22-1153 FAX 0228-22-0313